

CONTENTS

緊急連載『ARCHITECT』は必要ですか?.....中澤賢一 ..... 2

自作自演225 .....池澤邦仁 ..... 3

わたしのとっておき④ .....石田博英 ..... 3

第4回 吉田五十八の住宅  
近代数寄屋住宅の意匠.....大井隆弘 ..... 4

第6回 JIA 東海住宅建築賞2018 現地審査・最終公開選考・表彰式 ...吉村昭範 ..... 6

第25回 JIA 東海支部卒業設計コンクール2018に入賞して 一金賞・銀賞受賞者の声—  
..... 伊藤 誉・木村優介・高木里美 ..... 8

愛知発 NAGOYA Archi Fes連続レクチャーvol.2「吉元 学」  
「Affected (影響を受ける)」学生へのレクチャー  
..... 浅井裕雄・澤田留名・芝田彩乃・鈴木満里奈・竹内美有 ..... 9

愛知発 第13回 JIA 愛知美術サロン展  
絵画展誕生は、メンバーの一期一会 .....田中英彦 ... 10

東大生産研究所教授 腰原幹雄氏講演  
「森と都市の共生 いろいろな木を使う」を聴講して .....大塚一三 ... 11

理事会レポート .....車戸愼夫 ... 12

東海支部役員会報告..... 出口基樹 ... 13

保存情報 第202回 山岳資料館 (旧高山測候所)..... 藤田淑子 ... 14

賀茂神社参集所 旧丹葉織物同業組合玉ノ井検査所 ..... 谷 進 ... 14

Bulletin Board ..... 15

地域会だより ..... 15

法人協力会通信③⑦ 株式会社ミヤマラ ..... 新堂昌孝 ... 16

編集後記..... 中村愼吾・黒川喜洋彦 ... 16

設計図は語る ● 6

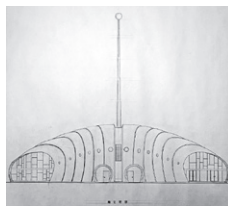
フジパンロボット館

三共建築設計事務所 (1945 [昭和20] 年設立)

フジパンロボット館は、1970年の大阪万国博覧会のパビリオンとして建設され、閉幕後、愛知県青少年公園(現 愛・地球博記念公園)に移設、その後、1995年に老朽化のため解体されました。

当時まだ中小企業であったフジパンが、食品業界で唯一、東海地方で唯一の出展企業として参加表明したところ、当初企画が万博協会に受け入れられず、知人のついでで先代の五十嵐昇のところに依頼が舞い込んだようです。五十嵐は社員と相談し、当時すでに売れっ子の手塚治虫氏にロボット館のプロデュースを依頼。形状はパンの形を考え、クロアッサンから始まりコロネの形に落ち着いたこととす。芋虫にもみえますが…。

当時学生だった私は、3回の大阪万博訪問にもかかわらず会場で見物を見ておらず、入社後、青少年公園でみずばらしくなった姿を初めて見ました。



フジパンロボット館 南立面図



同・外観

構造…鉄筋コンクリート造  
規模…鉄骨造平屋建て一部  
2階テント屋根  
延床面積…819.09 m<sup>2</sup>  
設計監理…三共建築設計事務所  
設備設計…桜井設備  
施工…大末建設

服部 滋 (JIA愛知) |  
三共建築設計事務所



ARCHITECT 存続の危機!/? ついに休刊!/? 30年の歴史に幕、廃刊か!/?

## ご意見下さい、会報誌『ARCHITECT』は必要ですか？

東海支部会員のみなさまへ重要なお知らせです

突然ですが、東海支部会員の皆さま。東海支部独自の会員サービスとして、皆さまのお手元に届いている会報誌『ARCHITECT』が存続の危機にあることをご存じでしょうか？

この緊急連載は、今後『ARCHITECT』がどうあるべきかを、支部会員の皆さまと考えるため、『ARCHITECT』にかかわるさまざまな情報を、あくまで客観的に提供する連載です。

前回8月号では、『ARCHITECT』の現況と今後のスケジュールについてお知らせしました。

- 現況—予算の面だけでなく、執筆による誌面づくりに関しても、多くの皆さまにご協力いただけていない状況です  
 予算：発行費用の増額に反して、広告収入が年々減少しており、支部財政を圧迫している。  
 内容：年々執筆の依頼を辞退される会員が増え、限られた会員の中で入れ替り執筆し、誌面をつくっている。
- 会員の皆さまから意見をいただくためのスケジュール  
 2018.11月：ARCHITECTに関するアンケート実施  
 2019.2月：会員集会開催（静岡・愛知+岐阜+三重の2回）  
 2019.6月：支部総会にて「ARCHITECT」の継続・休刊について決議

### 3. 『ARCHITECT』継続の方法とその試算

#### ●発行方法について

現在、支部および会報委員会では、3通りの継続方法を検討しています。

##### A：毎月発行・掲載員を維持して継続

→今後、会員からの広告収入が増えない限り、支部事業全体の予算見直しや支部会費徴収などの新たな収入確保を検討することが必須です。

##### B：隔月発行や季刊など発刊ペースを縮小して継続

→発行回数に応じて広告費収入は減少するものの、発行費用が大幅減となるため、これまでと変わらない予算規模で継続が可能です。

##### C：電子書籍化して継続（紙面印刷せず、これまで同様、編集社によって校正された誌面をPDF形式で支部HPに掲載）

→編集費用はこれまでと同様に必要ですが、印刷費が不要になり、オールカラーでの掲載が可能で、頁数の設定が自由です。

ただし、印刷媒体でないため、広告費の徴収は期待できません。

#### ●試算について

※単位：万円（支出における連載執筆者への原稿料、発送先への配送費は少額のため、今回は考慮していません）

	2017年まで 毎月発行 <small>年12冊・総208頁(24頁・2回)</small>	A 毎月発行 <small>年12冊・総208頁(24頁・2回)</small>	B I 隔月発行 <small>年6冊・総104頁(24頁・1回)</small>	B II 季刊発行 <small>年4冊・総72頁(24頁・1回)</small>	C I 電子毎月発行 <small>年12冊・総208頁(24頁・2回)</small>	C II 電子隔月発行 <small>年6冊・総104頁(24頁・1回)</small>	C III 電子季刊発行 <small>年4冊・総72頁(24頁・1回)</small>
●支出 編集委託費 <small>(建築ジャーナル)</small>	106	176	88	61	176	88	61
印刷製本費(800部) <small>※C案は版下製作費</small>	281	281	150	105	178	89	61
計	387	457	238	166	354	177	122
○収入 協賛金収入 <small>(会員・暑中・年始広告)</small>	71	71	35	35	0	0	0
広告費収入 <small>(愛知県住宅センター+柳井具總本社)</small>	75	75	60	40	0	0	0
広告費収入 <small>(法人協力会-各号4社)</small>	100	100	50	30	0	0	0
計	246	246	145	105	0	0	0
収支差額	-141	-211	-93	-61	-354	-177	-122

B案では広告費（つまり会員および協力会の負担）を軽減した上で、支部支出を圧縮でき、C案では隔月・季刊であれば、広告費をなくした上で、これまでと同程度の支部支出に抑えることができます。

あるいは今後、支部全体の予算見直しを検討することで、A案の毎月発行を継続することも可能ですし、逆に休刊となった場合は、200万円ほどの予算を他の用途に充当することが可能です。

#### ●立ち返って、発行の意義について

今回は予算のみに着目し、これまで30年続いた毎月発行を改変する案も含めて検討しました。しかし、そもそも会報誌発行は、さまざまな事業などの報告書の役割も持った、全会員へ均等に提供されるサービスであり、会の予算を一定額使用することが前提の事業であるはずで、支出額の大小でその行く末を決めていいものではないはずです。

一方で、広告費収入や執筆者の減少に見られるように、会として『ARCHITECT』を会員の手でつくり上げ、継続しようという意識が低下してきているように感じられます。この状況のまま、多額の費用を投じて継続してよいものでしょうか？



中澤賢一  
(JIA 愛知)  
会報委員会委員長

継続、休刊、どのような結果になっても、これまで30年続いた『ARCHITECT』の今後について会員全員で議論しましょう!!

(次回連載は「矢田義典支部長から会員への呼びかけ」の予定です)

※『ARCHITECT』の今後に関するご意見、ご提案などをいただける方は、FAXまたはeメールにてJIA事務局までご連絡ください!!

返送先：JIA東海支部事務局 FAX:052-251-8495 / メール:shibu@jia-tokai.org



## 池澤 邦仁 (JIA 三重)

池澤アソシエイツ (伊賀市蓮池410番地 TEL 0595-36-2429 FAX 0595-36-2429)

### 極私的稀覯本蔵書票2.

#### ●聴竹居図案集

藤井厚二著 / 岩波書店 / 昭和4年 / A3 変版無綴 42葉

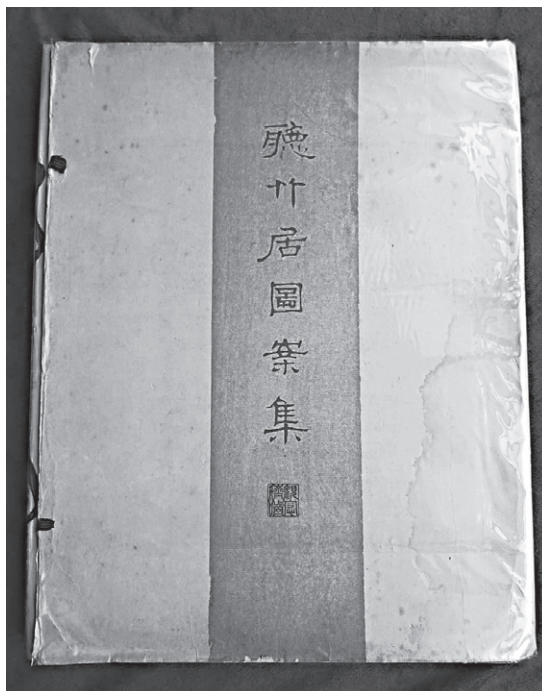
#### ●主な内容

建築家・藤井厚二自邸の本屋と閑室 (書斎・アトリエ)、茶室の三棟の写真および図面

#### ●備考

2018年は「聴竹居」完成90年、藤井厚二の生誕130年、没後80年の節目の年

(本稿は本誌2002年2月号の本欄の拙稿「極私的稀覯本蔵書票『分離派建築会作品集第三千九百二十四年』」に続くものです。)



## わたしのとっておき ④ 聚楽園大仏



### 石田博英

JIA 愛知  
伊藤建築設計事務所

地元で親しまれており、遠足などで訪れた思い出の場所だが、今は通勤時に車窓から眺める景色となっている。大仏自体、巨大な印象があったのだが、あらためて訪れてみると思ったほど大きく感じられない。子どもころの印象が強かったためであろうか。

聚楽園大仏は、愛知県東海市の聚楽園公園内にある鉄骨鉄筋コンクリート造の阿弥陀如来



聚楽園大仏

像で、高さは18.8m。着工は1924(大正13)年。1927(昭和2)年開眼供養。1985(昭和60)年に改装され、銅色にペイントされた現在は東海市指定の文化財になっている。大仏は名古屋の実業家・山田才吉が大正天皇御大典記念事業として発起し、後に天皇陛下(昭和天皇)御成婚記念事業として完成させたもので、聚楽園自体も山田が開園したものである。山田才吉は、大仏以外にもさまざまな巨大建築を手がけており、その建築道楽ぶりに興味のある方は、一度調べてみることをお勧めする。

ちなみに大仏の高さを比較すると、奈良14.98m、鎌倉11.35m、岐阜13.63mである。蓮華座後



茶室「嚶鳴庵」

部に胎内入口があり、内部には左右に階段があり仏画や仏像が展示してあったそうだが、今は閉鎖されている。

公園内には、1991(平成3)年に解体された料理旅館「聚楽園」の跡地に茶室「嚶鳴庵」が建てられ、庭園を眺めながら、お茶をいただける。「嚶鳴庵」の名称は東海市出身の儒学者である細井平洲が江戸に開塾した「嚶鳴館」から名付けられたものである。

#### ● data

所在地 | 東海市荒尾町西廻間2番地の1  
アクセス | 名鉄電車「聚楽園駅」下車、東へ徒歩5分

この連載は、数寄屋を端緒に日本建築の近代化に生涯を捧げた建築家・吉田五十八(1894～1974)の住宅作品を、近代住宅史的な観点から紹介するもので、東京芸術大学の大学美術館に所蔵されている図面類(平面図が残る全86作品)を基礎資料としている。今回は、吉田が『建築と社会』誌に発表した「近代数寄屋住宅と明朗性」(1935.10, pp.64-70)を取り上げ、そこで述べられた①意匠的な明るさを増すための工夫と、②実際の明るさを増すための工夫のうち、②について確認した。今回と次回は、残る①の工夫について見ていこう。

### 近代数寄屋住宅と明朗性

「近代数寄屋住宅と明朗性」で吉田が説明した①の工夫とは、数寄屋住宅を大壁化する方法をイラスト(図1)付きで述べたものであった。ここでまず吉田は、従来の数寄屋住宅の意匠上の問題点を挙げている。つまり、「見る人の視野の内には、下から順に見上げて、1) 畳、2) 内法下の壁、3) 小壁、4) 天井、即ち上下2つの平面と、木材によって仕切られた2つの壁環(ring)合計4つの部面が視野に入る譯である。縦横無盡に仕切られた壁面天井(畳みも縁に依つて仕切られている)は室内の明朗度を減ずる事甚だしく、数寄屋建築特有の『ウルサゝ』が如實に表現されて居ると言はなければならない」と。言うまでもなく、壁面や天井面を分割しているのは長押や竿縁、廻縁などである。そこで、次にそうした線部材の省略方法の説明が続く。

(1) 内法上を大壁にする方法(図1左):長押のムネを少しく出して小壁を大壁に見るときは、小壁全部を一つの部面と考へ、相當の明朗度を増加する。

(2) 天井を壁と同材にして、内法上の大壁とを連絡せしめ、之を一つの部面に見る方法(図1中):小壁と天井を全部の一部面と考へる方法で、従来上下4部面に仕切られた視野は3部面に減じ、それだけ明朗度を増加せしめる事(1)より効果的である。

(3) 長押、附鴨居を見ず、(2)の方法に依り天井から下りて来た大壁と一つに見る方法(図1右):最も近代性を帯びた考へ方で、長押、鴨居、附鴨居を全部大壁に見て、内法下の壁面と小壁天井とを同一の仕上の一部面と考へ、建具を除くときは室全體を床の面と壁天井との2部面に見做す考へ方である。

以上のように述べた上で、吉田は「従来の数寄屋住

宅は兎角、過古の住ひ」であり、「今日よりの数寄屋住宅は一段の明朗化。朗かさ。に生き生きとして若き近代人を大手を廣げて迎へねばならない。それが数寄屋建築家の責任であり義務である」と締めくくった。ここでは、数寄屋住宅を大壁化することが「最も近代性を帯びた考へ方」と述べており、「大壁化=近代化」という意識が伺える。

### 主張の疑問点

ところが、以上の説明やイラストには疑問が残る。例えば、吉田は大壁化を主張しているのに、内法上部分にしか手を加えていない。また最終案(図1右)が、内法の上下で壁面に段差を生じさせたままになっている点も見逃ごせない。ひょっとすると、この論考が発表された1935年時点では、吉田の「近代数寄屋住宅」は未完成だったのではないか。

### 内法上下の段差の解消1:長押の利用

そこで、この論考が発表された前後の作品を確認しながら、内法上下の段差について検討してみよう。まず図2は、1937年に建設された伊東邸(改修)である。この図から明らかなように、内法上のみを大壁化すると、内法上下の壁面にはわずかな段差が生じることが分かる。その上で図3は、1933年に建設された杉本邸の応接間である。ここでも内法上と天井は大壁で、内法下には柱が見えるので、内法上下の壁面には段差が生じているはずである。したがって、竹の長押には上下の段差を解消するという意味がある。このように、内法上と天井を一体的に扱いながら長押を残す例は、1938年までの時期に集中して見られる。消したいと思っても、なかなか思うように消えてくれない。それが、長押だった。

### 内法上下の段差の解消2:平面形の工夫

しかし、吉田はとうとう長押を省略する方法を導く。それを最もよく確認できるのが吉田自ら「近代数寄屋発祥の家」と位置づける吉屋信子邸(1936)の応接室である。図4に示した吉屋邸の平面図の応接室に注目してほしい。応接室の周囲には、「ピアノ室」のほか、押入れ、土縁、ソファ、床の間などがぐるっと一周巡って入れ子のようにになっているが、これが鍵だ。つまり、吉田はこれらの要素を用いて内法下の壁面を大きくセットバックし、壁面に僅かな段差が生じるの

を回避しているのである(図5)。その際、建具が入る部分は戸当りや鴨居の小口が見えては大壁に見えないので、その小口を斜めにカットした「はっかけ」という手法を用いた。ただし、この方法はすべての室には適用できないので、他の室では長押を残した設計になっていた。ちなみに、最初に確認した伊東邸は1937年で、吉屋邸よりも後の作品だが、改修作品であったことが影響して段差がそのまま残ったものではないかと思っている。

### 内法上下の段差の解消3:壁面形状の工夫

以上のような方法で、吉田はわずかな段差を回避する方法を導いたが、続く1940年に建設された複数の作品ではその手法に発展が見られる。図6は、熱海に建設された岩波別邸(1940)で、(吉屋邸のような方法に頼ることなく)、内法上下の段差を解消している。柱の部分をよく見てほしい。ここでは円柱と壁面が接触する手前で、壁面に角度がふられており、本来であれば壁中に埋まってしまう円柱を残しつつ大壁化を達成している。図7は、同作品の図面の中にあつた平面スケッチで、柱の部分で壁面に角度をつけるアイデアが描かれている。

内法上だけではなく、壁面全体を大壁化すること。これが吉田の近代数寄屋住宅の完成と見るならば、1940年こそその年である。完成した意匠は、塗り回した内法上と天井の量感あるまとまりを円柱が下から支える、というものであつた。壁全体を大壁化した岩波別邸でも、その意識は失われていない。ところが、直後の1941年になると、吉田は内法を基準としていた分割を取りやめ、壁面と天井面の分割へとシフトする。今回は、そのあたりからスタートし、吉田の作風の全体像を確認してみたいと思う。



図1:①の工夫・吉田による大壁化の提案(トレース)

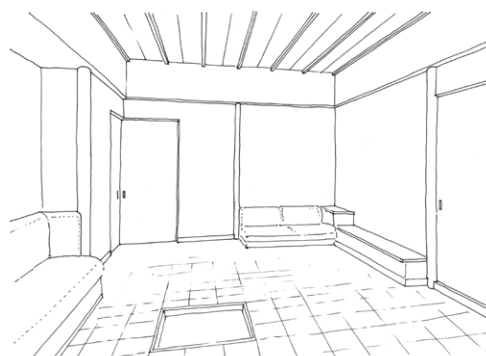


図2:伊東邸(1937改修)

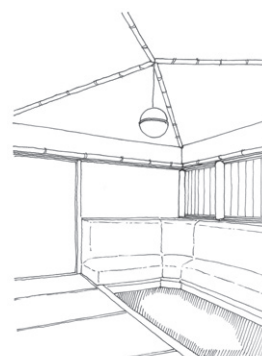


図3:杉本邸応接室(1933)

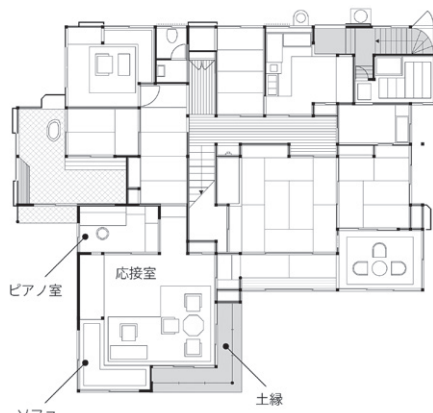


図4:吉屋邸(1936)1階平面図

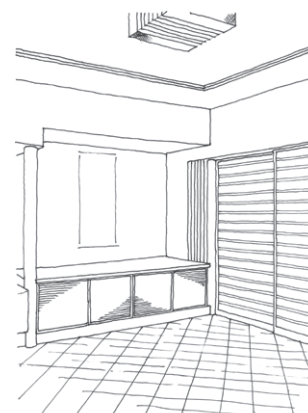


図5:吉屋邸(1936)応接室

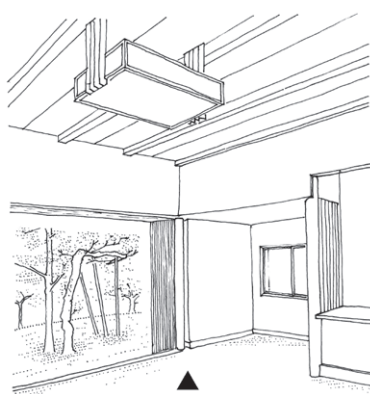


図6:岩波別邸(1940)居間

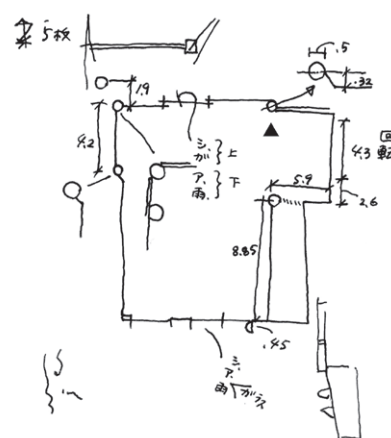


図7:岩波別邸(1940)平面スケッチ(トレース)



大井隆弘(おおい・たかひろ)

1984年東京都生まれ・岐阜県高山市で育つ。2006年三重大学工学部建築学科卒業。2009年東京芸術大学大学院美術研究科建築学専攻修士課程修了。2015年同大学博士課程修了・博士論文は「吉田五十八の住宅作品に関する研究」(博士(美術))。2015-2017年同大学教育研究助手。2017年・現在、三重大学工学部建築学専攻助教授。主な著書に「昭和住宅」(共著、2014年、エクスマレッジ)、「日本の名作住宅の間取り図鑑」(2015年、エクスマレッジ)。

## 第6回 JIA 東海住宅建築賞2018 現地審査・最終公開選考・表彰式

7月28日と29日の2日間にわたって、第6回JIA住宅建築賞2018の現地審査が行われました。また、29日の15時から名古屋工業大学NItech Hallにて最終公開選考と表彰式が行われました。学生／一般／JIA会員ともに70名もの参加がありました。現地審査には、6月30日の公開審査において前年より1作品少ない7作品が入賞候補作品として進みました。

審査員と運営委員含め12人で静岡から四日市あるいは恵那までと2日間で多くの作品を見て渡りました。現地審査を経た公開審査では、入賞候補作品一つひとつについて3人の審査員がとても丁寧に講評を行いました。この講評では、各審査員の微妙な建築観の違いが垣間見られたり、あるいは同じ評価ポイントについて異なる視点から語られたりと、一次審査とは一転して白熱した議論になり、充実した公開審査となりました。来場者にとってはとても奥深い建築議論を聞くことができ、貴重な機会だったのではないのでしょうか。

個人的には、塚本審査員長の言われた「住宅が何かの事物連鎖のネットワークにつながっていることが大切なのではないか」という指摘が興味深かったです。例えば、優秀賞となった河合啓吾建築設計事務所の河合啓吾さんの「SLBH1」はホームセンターの

ような一般消費者でも手に入れることのできる住宅設備や金物の小売業の流通に根深くつながること、大賞となった裕建築計画の浅井裕雄・吉田澄代の作品は今まで近代建築ではあまり考えて来られなかった農村の暮らし（ネットワーク）と建築がつながることなどが評価されましたが、これらの視点はこれから住宅を設計する上でもとても考えさせられる示唆ですし、今後の本住宅賞を進めていく上でも重要な問題提起だったと思いました。

長い時間、狭い車内に耐えていただいた審査員の先生方に感謝いたしますとともに、現地で暖かく迎えていただいた建築主の皆さまにも感謝いたします。そして、1年間運営に携わった運営委員の皆さま、会場の設営や裏方をしてくれた名古屋工業大学の伊藤孝紀研究室の学生の皆さん、NAFの皆さん、本当にお疲れ様でした。

現在、作品集を脇坂圭一氏が中心となって編集中です。作品集がお手元に届くのを楽しみにお待ち下さい。

吉村昭範 (JIA 愛知) |  
JIA 東海住宅建築賞特別委員会副委員長



現地審査（「毛鹿母の家」裕建築計画）



現地審査  
（「SLBH1」河合啓吾建築設計事務所）



現地審査（「マチノスキマ」エムエースタイル建築計画）



公開審査では作品一つひとつに丁寧な講評が行われた



受賞者と審査員の集合写真

大賞

## 毛鹿母の家

浅井裕雄 + 吉田澄代

裕建築計画 東海支部 (愛知地域会)



優秀賞

## SLBH1

河合啓吾

河合啓吾建築設計事務所 (岐阜)



優秀賞 マチノスキマ

川本敦史 + 川本まゆみ

エムエースタイル建築計画東海支部 (静岡地域会)



優秀賞 豎の家

佐々木勝敏

佐々木勝敏建築設計事務所 (愛知)



奨励賞 ハマグリさん家

服部信康

服部信康建築設計事務所 (愛知)



奨励賞 gre'・正方形の家

山村尚子 + 鈴木宏亮

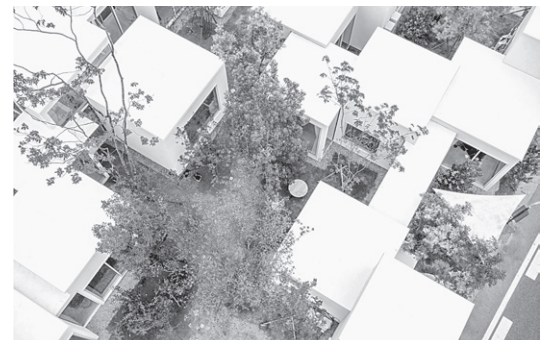
すずき (東京)



奨励賞 連棟の家

栗原健太郎 + 岩月美穂

studio velocity 一級建築士事務所東海支部 (愛知地域会)



## 「地域に開く」をどう乗り越えるか

金賞受賞 伊藤 誉 (名古屋工業大学大学院)



はじめに、建築学生の集大成である卒業設計において、身に余る評価をいただき大変嬉しく思う。卒業設計に限らず、ここに至るまでの大学生活4年間を支えてくださった方々に、深く感謝申し上げたい。

私が卒業設計において取り組んだテーマは、「『地域に開く』をどう乗り越えるか」という一見すると普遍的なものである。建築は必ず、利用者や管理者、歴史や文化、敷地境界や街区など様々な境界線の中で立ち上がるが、往々にして「地域に開く」という難題を思考する。しかしながら、私の故郷池田市で起きた小学生殺人事件を境に、学校建築だけでなくすべての建築におけるセキュリティが根本的に変化し、「地域に開く」ことがより難題となってしまった。私の故郷で建築を考えること、すなわち最も「地域に開く」ことが難しい場所で、どのように開いた建築を立ち上げるのかを思考することが卒業設計であった。

入学当初の私は、建築に対してお世辞にも興味があったとはいえない。だが、この卒業設計をやり切った今、私が建築を学ぶ道を選んだことは、きっと偶然ではないと確信している。卒業設計のテーマを、私の建築人生のテーマとしてこれからも歩んでいきたい。



作品名：始終のまなび

## 「生きる」を取り戻す、建築の力

銀賞受賞 木村優介 (愛知工業大学)



豊洲市場移転問題しかり、日本は急激な経済発展を進めたため、一極集中型の大型施設を設け、結果、さまざまな産業をパッケージ化してしまいました。産業のブラックボックス化が進み、スーパーやコンビニには既成食品が並ぶようになりました。日々口にしている食材がどのようにつくられ私たちのもとへ届くのか、その過程や工程に触れる機会を失うことは食育という面で人にとって大きな損失です。

この作品では、衰退している漁業集落を食育市場として再興し、産業の見える化を行うことで巨大市場がパッケージ化した点を人々に提供していくことを考えました。

かつて東京湾周辺には30ほどの漁業集落が存在していましたが、衰退の一途を辿っています。将来的にはこの食育市場がその土地の地域性を反映

しながら、漁業集落に点在していくことも考えました。

大学で学ぶ過程で、建築は社会と直結していて、建築家は社会に対する投げかけやアクションを起こすことができる存在だと分かり、そのことを理解した上で設計を行うべきだと強く感じました。

卒業制作にてお世話になりました皆さまに深く感謝したいと思います。



作品名：  
「浜マルシェ」  
—地域循環型市場の創出—

## 母に贈った卒業設計と今

銀賞受賞 高木里美 (桐山女学園大学 / 名古屋市立大学大学院)

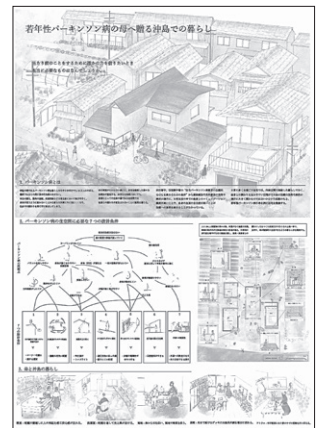


1年と半年間取り組んだ卒業設計は、パーキンソン病と25年間付き合い生きてきた母と家族が、自分らしく暮らせる住まいを提案しました。

日々の生活の中で引き起こる、転倒や強張りといった症状を治すことはできませんが、今ある治療法の効果を高められる生活環境や、問題が起こったときに支えになるような住宅の在り方を設計条件から模索しました。

敷地に選んだのは、琵琶湖に浮かぶ沖島という人口250人の有人島。都市から程近く、車もないこの島は自分の生活に必要なものは自分で賄う、自給自足の暮らしをして続いてきた生活の島。人と人のつながりが強く、支え合いながら暮らしを営む姿は、まさに求めていた暮らしでした。1年間島に通う中で出会った人々とのつながりから、豊かな自然環境だけでなく、そこで生きる「人」の特徴や「暮らし」の習慣も豊かな建築をつくる要素になることを学びま

した。卒制展が終わった今も、沢山のことを教えてくれたこの小さな島に自分ができることを探し、相変わらず沖島に通っています。これから何を残し、何を次に引き継いでいくべきなのか。卒業制作はまだ終わりそうにありません。



作品名：  
「若年性パーキンソン病の母へ送る沖島での暮らし」

## 「Affected (影響を受ける)」学生へのレクチャー

建築学生団体 (NAF) との共催イベントで6人の建築家が学生にレクチャーするが、内容は各建築家に任されている。会場には1～2年生を中心に多くの方が参加し集まってくれた。

第2回の登壇は、愛知地域会会長として活躍中の吉元学さん(ワーク・キューブ)。建築家としての今までに影響を受けた人、コトをテーマに語ってくれた。

### ●影響を受ける

学生時代の恩師で建築家の広瀬謙二には厳しく建築の精神を学んだ。建築家・松村正恒のエピソードでは地方と建築家のかかわりを強く感じる。影響を受けた友と現在のワークキューブを設立することになる。

### ●影響をあたえる

吉元さんが設計した「母の家」は、建築を通じ、お母さんと地域の人とのコミュニケーションを生み、人とのつながりに影響を与えている。自邸の「nagono no mise」は、工法や地域の建材を使っていることに特徴がある。建築の「つくり方」を通して新たなまちのあり方を提案し、家族と世の中に影響を与えている。

建築を実践することで、影響を受ける側から影響を与える存在へと変化していく。

### ●ひろがる影響

私はどんな影響を受けて来たのか。小学校

の頃、自宅に小さな部屋を増築した。大工さんが来て見る見るうちに空間ができていくことに感動した。それは、美しい建築といったなにかではなく、空間が人の手でできることが、自分でもつくれるのではという欲求につながった。

ひとりで旅に出て、貧しくもひと月充実した日々を過ごせたことで達成感と生きる自信みたいなものを得た。それから、建築家と出会って、感動、憧れ、学び、真似たり、実践したり、多くの影響を受けて今がある。

それでは私はどんな影響を与えているのだろうか。一番は、事務所のスタッフだろう。ほとんど仕事を通じてだが、建築の納まりのことなんかは必ず答えが出るから良いとして、考え方や何を優先するかは、人生観に近いコトになる。だから、深く議論すれば人となりを議論することになってしまう。建築はそんな人の生き方の上に成り立っている気がする。



レクチャーの様子

レクチャーに参加している学生は「失われた20年」に育った子たちだ。吉元さんも私もバブルを体験した昭和生まれだ。この子たちにどんな影響が与えられるのか、6回のレクチャーを見ながら考えたい。ところで、僕の娘たちは、父親から何か影響を受けているのかな…。



浅井裕雄 (JIA 愛知) | 裕建築計画

### 学生の声

6月20日、名古屋工業大学にてNAGOYA Archi Fes連続レクチャー Vol.2が開催され、建築家の吉元学さんにご講演頂きました。学生時代に建築に興味をもつきっかけとなった建築家のお話から、最近のご自身の作品紹介など、学年を問わずどの参加者も楽しむことのできるレクチャーでした。

以下に学部1年生のレクチャー参加者の感想を掲載させていただきます。

今回のレクチャーでは、吉元さんの建物がとても印象に残っており、特にマンションが素敵だなと思いました。外から見えないように、だけれども陽の光は入るようにというテラスのつくり

方は理想だと思います。どのように設計したらそのようにつくれるのかとても不思議だなと思いつつ、自分も勉強を積んで仕組みが理解できるように、またそんな素敵なアイデアを思いつくことができるようになりたいなと思いました。同マンションについては、玄関の光が漏れるつくりも綺麗でした。そして、一番感銘を受けたのは、住んでいる人と他者とのつながりを大切にしている設計です。ご近所さんという他者との会話が昔より減ってきている今の時代で、コミュニケーションを増やそうと言葉で説得するのではなく、動くことのない建築が会話を増やすよう導いている点がいいなと思いました。最後に

おすすめの本の一覧を下ざりとてもありがたかったです。時間に余裕のある夏休みなどに少しずつ読んでいきたいです。

NAGOYA Archi Fes2019では、東海地方でご活躍されている建築家の方を講師としてお招きするレクチャー企画を月に1回のペースで開催していきます。これからも大学の講義だけでは学べない学びを発信していくとともに、学生がより建築家という職業に魅力を感じられるような機会を提供していきたいです。

澤田留名・芝田彩乃・鈴木満里奈・竹内美有 | NAGOYA Archi Fes2019

## 絵画展誕生は、メンバーの一期一会

7月3日(火)～8日(日)まで、東桜会館にて第13回JIA愛知美術サロン展が開催されました。初日から雨に祟られ(西日本豪雨災害も発生!)、入場者数は、220名余りと、昨年の6割強でした。鑑賞者にはリピーターも多く、会場のあちこちに、久しぶり!の笑顔と、出展者の説明に耳を傾けながら談笑する光景が見受けられました。

この絵画展の歴史を振り返って見ます。2005年のUIAイスタンブール大会のボスポラス海峡クルーズで、大先輩とスケッチの話で意気投合(一期一会!)し、翌日アヤソフィア大聖堂にスケッチに出かけることに。帰国後の東海支部岐阜大会のエクスカッション時に、その話題から花が咲き、絵画展をやることになりました。

2005年10月21日の第1回準備会でJIA愛知美術サロンを立ち上げ、世話人を5人選出、小生は常任世話人となり、準備委員会を5回開き、名古屋の錦にある画廊(T.A. G. IZUTO)で第1回JIA愛知美術サロン展(2006年5月9日～15日)の開催に至りました。小生は絵画展出展は初めてで、先輩(故人)に、30号は描かないと映えないとハッパをかけられ、夢中で描き上げ出展しました。

錦3の会場では3回開催、支部総会時に役員会待ち時間を利用して、他地域会のメン

バーにも鑑賞していただきました。会場の中央にスタンドがあり、グラスを傾けながら、会話が弾みました。

しかし、錦3は、「名古屋の夜の繁華街」、「昼間の人通りが少ない」、「馴染みのない方には分かりづらい」、「車で行きづらい」との声に別会場を探しました。会場の広さが魅力、地下駐車場が無料の割に会場費がお値打ちと、第4回から現在の東桜会館に移しました。

出展者の画種は、油彩・水彩が多いですが、木炭・パステルやコーヒーの着彩もあります。絵画教室の先生が開く絵画展と違い、出展者の個性がばらばらな所も、良い評価につながっているようです。

近年は2016年、2017年と愛知建築士会水彩同好会と、名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)で10月開催の建築総合展で、合同絵画展を開催しています。

美術サロンでは、2～3カ月に1回デッサン会、年1回泊りでスケッチ旅行と精進に励んでいます。懸念は、高齢化と愛知の美術サロンメンバーがやっと10名で、会員の3%程度であること。来場者に、この絵画展主催のJIAをご説明すると、設計されるから絵を描く方は多いんでしょう?とよく言われますが、返事に詰まります。小生は社会人1年生で油絵をかじっ



出展者集合写真(11名中7名)

て、仕事にウエイトが掛かると、絵画から気持ちが離れ、長く中断していました。50代になり精神的な余裕ができ、油絵に向け一念発起?旅のスケッチから始め、海外に出向き、油彩で仕上げるのが喜びとなっています。65歳ころから本格的に始めたメンバーもいます。

13回も続けると高齢化も悩むところで、ラウンジ的な、建築家の描く絵画を展示する場の灯は消さないように、公益社団法人として、JIA会員外の方の出展も積極的に受け入れながら、支部、地域会JIA会員が絵画に一步踏み出せる機会(画材から手法などの実技演習など)を準備したいと思っています。やはり、50代の奮起を望むところです。



田中英彦(JIA愛知)|  
連空間都市設計事務所

出展者名	所属	作品タイトル	出展者名	所属	作品タイトル	出展者名	所属	作品タイトル
小田義彦	伊藤建築事務所	ホイアン「日本橋」	後藤文俊	アトリエ後藤建築事務所	高岡市伏木気象資料館	山田正博	建築計画工房	須走五合目
		睡蓮			クロッキー			安曇野一本桜
		シエムリアップ「タブロム寺院」	高木耕一	(JIA・会友)	クロッキー	名古屋城		
		錦秋の祇王寺			旅のイラスト 2018	鶴舞駅		
神谷義夫	神谷義夫建築設計事務所	蒼生す	田中英彦	連空間都市設計事務所	シクラメン	養楽堂の踊子		
		針ノ木峠より富士	福田一豊	福田建築事務所	ヴェニス、フィレンツェ…	ムーランルーージュ		
		十勝岳連峰			回想	ゴールドメダル		
		由布岳			マルタ島	金冠		
		阿蘇遠望			名古屋港	金糸梅		
		篠島一日間賀島より			デッサンI	デッサン		
		大井漁港			デッサンII	デッサン		
八事興正寺	福田法人	吉川法人+			青い池	吉川法人+	人体デッサン 座像 1	
十和田ホテル			ハーバーに戻ったヨットたち	都市建築デザイン室	人体デッサン 座像 2			
栢本良三	錦建築設計	屋根	きいろのバラ群	作品(いす)	人体デッサン 座像 3			
		塔	作品(いす)	デッサンI	人体デッサン 座像 4			
川窪 巧	川窪設計工房	名古屋城	デッサンII	デッサンI	人物デッサン 立像 1			
		忠犬ハチ公像	山田尊久	山田尊久建築設計事務所	裸婦	人物デッサン 立像 2		
		忠犬ハチ公像			裸婦			
		渡月橋			赤いドレスの女			
白水小学校(柴田分校)	スカーフを巻いた人							

## 「森と都市の共生 いろいろな木を使う」を聴講して



大塚一三 (JIA 愛知)

去る6月27日アメリカ広葉樹建築家セミナーが、名古屋マリオットアソシアホテルで開かれた。

「米国広葉樹市場に基づく最新の広葉樹製材等級規格付」「米国高級インテリア市場でのアメリカ広葉樹のユニークな活用法」の2題の米国側講師の講演に続いて、東大生産技術研究所教授腰原幹雄氏、木材塗装研究会長澤良一氏の講演が行われた。

腰原氏の講演主題は「森と都市の共生 いろいろな木を使う」であった。

木造建築およびその工法については、この100年の間、評価が大きく揺れに揺れ、毀誉褒貶いろいろな論議がなされてきた。社寺に見る伝統工法の素晴らしさを誇る一方、関東大震災を受けての木造亡国論、これにたいする木造愛国論、福井地震、伊勢湾台風の被害から建築学会が主導した特定地域での木造禁止などである。結果として、建築基準法の防火耐火規定と相俟って、大規模木造建築の息は止まり、戦争末期までは行われていた木構造の研究は、ほとんど止まった状態に陥り、1980年ごろには著名な木構造研究者をして「日本の木造の研究は死んだ」とまで言わしめる状態となったのである。しかし、1990年代になると、地

域興隆を目指し、集成材を利用した木造ドームの建設が全国の木材産地を中心に起こり、2000年ごろまで続いた。さらに、このころまでには木造の耐火技術の開発が進み、基準法の改正により耐火性能を満たせば、特殊建築物でさえも木造が可能となり、現在では、新しい木造の目線はさらに伸びて、高層建築に向かおうとしている。

このような木造建築の劇的ともいえる復活と木への志向には、技術を超えた、木に関連しての外的内的な要請があるとされている。JSCA地球環境委員会からの発信を借りると、「パリ協定」に象徴される地球環境問題への国際的な意識の高まりと「わが国の森林が抱える独自の問題」である。海外にしばらく出て日本に帰ると、この国が如何に多くの緑に覆われているかをしみじみと感じる。しかしその森の実態にはかなり問題が指摘されている。林野庁が掲げる森林資源の循環利用「植える、育てる、収穫する、上手に使う」のシステムがいまだ完成していない。そのためにまず国産木材の利用が必須になっているのだ。

腰原教授については、いまさらここで紹介するまでもないところだが、現在木について日本全国で最も活発に発言をされている一人である。この『ARCHITECT』誌にも「木

造建築のこれから」の主題で6回にわたって寄稿をいただいでいて(2010-3号～2011-1号)、その最終回には「現在、地球環境問題から木造建築が見直されているが、そのためにだけに木造建築を建てるわけではなく、新しい木造の技術が登場して、新しい建築が建設可能になったのである。建築の視点に立って、木材という材料をどのように利用していくのか。そこから生み出される空間はどのようなものかを考えていく必要がある」と木を使う本来の意義が述べられている。

今回の講演では、この連載で触れられた「都市木造」について、さらに詳しく多角的に解説が加えられた。木材はその中に炭素を貯蔵しており、木材の利用は炭素を固定することになるということは分かりきった話だが、都市の構造物に用いられる木材は「都市の森林」として炭素貯蔵能力を持つことになる。地産地消で使用される量とは圧倒的な差がある。地産地消の考え方が重要であり、さらには森林資源の有効利用を考えれば、いろいろな木、小径木、大径材、CLT・LVL、集成材、被害木まで、多様な木をその個性に合わせたさまざまな用途でかつ美しく、とことん使うことが必要であるなど、多くの極めて示唆に富んだ考え方が示された。



セミナーの様子



レセプションでの吉元愛知地域会長の挨拶

## 委員会委員・全国会議委員委嘱の構成が決まる

前回は最後の理事会報告のつもりでしたが、まだ報告業務が一回残っていました。

実質的な支部長の任を終えて、4カ月弱が過ぎたばかりですが、本部・支部の諸問題・活動も頭からすっかり抜け去り、5年前の年老いた地方の一會員の生活に戻ってしまいました。人生の残りの日々を、如何ともし難い気力・体力、加えて知力の劣化を自覚しつつも、少しでも地方都市の自然・文化・社会・都市環境の再整備の一助となる、設計活動をしていくつもりで、老体に鞭打ち生活しています。

私が暮らす大垣は、確かに西美濃地方の中核都市と呼ばれていますが、岐阜など県庁所在都市ほどの商業力はなく、中心市街地は再投資力を失わない空洞化が進むばかりで、補助金だよりの再開発か(これも時間がかかるばかりで遅々として進みませんが)、名古屋の衛星都市化に拍車がかかる、大手ディベロッパーによるマンション建設ばかりが目立ちます。また、公共・準公共(私立大学など)系の設計は、県内外の組織事務所に、そして民間企業は設計施工で発注することが大半となっています。

岐阜のJIA 會員の事務所は少人数の事務所がほとんどで、所長のみがJIAに所属し、士会、学会、事務所協会に所属しながらも、それでもJIA活動に主軸を置きながら設計活動をしている状況です。「登録建築家」の資格制度とその運用には、本部・支部共に多くの時間が費やされてきました。公共・民間共に受注し、地方の文化やまちづくりに関わりを持ち、いわゆる「建築家らしき姿勢」を不十分ながらも発信しながら活動してきた者たちにとって、今のJIAの「登録建築家」のシステムでは、いわゆる施主の世界、ましてや一般社会が振り向くとは思えず、地方で地道に築かれてきた職能が崩壊寸前である危機感を感じる今日この頃です。

本部署理事 車戸慎夫



第249回理事会が2018年6月26日(火)の13時30分～14時10分まで建築家会館3階会議室にて集合方式で開催された。出席者は六鹿会長以下、理事21名、監事2名、筒井専務理事、事務局3名。オブザーバー出席は森暢郎顧問、上浪寛総務委員会委員長、山口康憲、矢田義典、萬野光雄、田中輝幸、武智和臣、川津悠嗣、本多友常 各2018年度役員候補者。欠席者は藤井進理事。

### 【審議事項】

#### 1. 入退会承認の件(事務局)

##### 1) 新規入会希望者

正会員5名、準会員:専門1名、ジュニア4名、協力会員:個人1名、法人9件(日本ハウジングのみ定款等調べ再審議)

##### 2) 種別変更希望者 シニア3名

##### 3) 退会希望者 正会員:7名 準会員:3名 法人協力会員:3件

※6/26現在 正会員数 3687名 →以上承認

#### 2. 委員会委員・全国会議委員委嘱の件(筒井信也専務理事)

##### ① 広報委員会委員承認

委員就任 坂牛 卓(関東甲信越支部・編集長就任)、今村創平(関東甲信越支部・ただし三期目にて理事会承認)、土居志朗(関東甲信越支部・ただし三期目にて理事会承認)

##### ② 教育・表彰委員会

委員就任 宮 晶子(関東甲信越支部)

##### ③ フェローシップ委員会

委員就任 鈴木利美(関東甲信越支部)、奥野美樹(東海支部)、石山義朗(九州支部)

委員退任 青木恵美子(関東甲信越支部)、谷村 茂(東海支部)、田中康裕(九州支部)

※総務委員会との再構成についてはもう少し時間をかけて検討する。

##### ④ JIA まちづくり会議

委員就任 朝野佳典(近畿支部)、駒井陽次(近畿支部)、眞田井良子(四国支部)

委員退任 荒木公樹(近畿支部)、大原泰輔(四国支部)

##### ⑤ JIA 災害対策会議

委員就任 山之内祐一(北海道支部)

委員退任 笹栗達夫(北海道支部)

##### ⑥ JIA 環境会議

委員就任 安田幸一(関東甲信越支部)

※国土交通省からの社会資本整備審議会建築分科会建築環境部会委員にJIAからの委員として選任。→以上承認

#### 3. 本部職員の給与規定・退職金規定・就業規定改正の件(筒井信也専務理事)

・給与の査定は内規を定め、総務委員長、財務委員長、専務理事にて原案を作り、会長に諮問を計り決定する。

・本部職員のための給与規定等であり、各支部は独自に決める。

→以上承認

#### 4. 正会員入会申込書の一部改正の件(上浪寛総務委員会委員長)

#### 5. 総会白紙委任状の取扱いの件(筒井信也専務理事)

・今後、白紙委任状は会長委任と見做す由を葉書に明記する。

→以上承認

### 【報告事項】

#### 1. 本部委員会体制見直しについて(上浪寛総務委員会委員長)

#### 2. (仮)大阪北部地震の対応について

(筒井専務理事・井上久実近畿支部支部長)

#### 3. 「JIA 災害対策支援ネットワーク」について(筒井信也専務理事)

・8月に再度最新のデータによりネットワーク図を作成し、人選する。

#### 4. AIA 大会速報など

(六鹿正治会長・高階澄人国際交流委員会委員長)

#### 5. JIA 文化財修復塾受講案内等について

(左知子文化財修復塾副塾長)

# 東海支部役員会報告

新幹事として2回目の支部役員会に出席しました。1回目の前回にも増して盛りだくさんの内容かつ聞き慣れない用語も多く、正直、議事録をまとめるのに相当てこずってしまいました。しかし、配布された資料やホームページなどを確認しながら議事録を作成したおかげで、リアルタイムにはもう一つ分からなかったことも、概ね理解することができました。次回、次々回と徐々に理解度を深めて、早く議論に参加できるようにしたいと思います。



出口基樹 (JIA 三重) | 日新設計株式会社

日時: 2018年7月6日 (金) 16:00 ~ 18:20

場所: JIA 東海支部事務局 会議室

出席者: 支部長、本部理事、監事11名、監査1名、オブザーバー 9名

## 1. 支部長挨拶

6/26本部総会出席、建築家憲章における「保障」の削除に関して議論が交わされた。

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

#### ① 2018年度本部総会 (6/26) (豊田)

・出席人数が少なかったが、議論は活発であった。一年で106名会員が減っている事実。建築家憲章の「保障」の「会員」を「正会員」と変更について議論が交わされた。

#### ② 財務委員会 (6/21) (小田・鈴木委員の代理)

・支部運営費配分ルール見直しについて、委員会が案を提出し理事会で協議した後審議となる。

・公益事業活動助成について、350万円から100万円に総額が減った。

#### ③ 職能・資格制度/建築家資格制度実務 合同委員会 (5/25) (野々川)

・ミッション (修正版 再構築案) について、具体的な提案があった。  
・HP掲載「建築家とは」案について、一般の方にも解りやすい内容にしていく。  
・支部認定評議会を廃止し本部委員会への一本化検討要請があった。  
・登録建築家のメリット創出として、4つの戦略を掲げ検討していく。  
・設計監理契約書への登録建築家の誓約書添付の検討。

### (2) 支部報告

#### ① 第6回 JIA 東海住宅建築賞 1次審査 (6/30) (吉元)

・6/30に公開審査が行われた。7/28・29に現地審査、7/29公開最終審査と表彰式が行われる。

#### ② 日本建築学会教育支援会議シンポジウム (6/12) (関口)

・6/12日本建築会館大ホールにて講演を行い、愛知地域会の活動も紹介した。

#### ③ 平成30年度近現代建造物緊急重点調査 (建築) (矢田)

・本部より調査活動員の推薦依頼があり、静岡地域会から石橋会員と高島会員を推薦した。

#### ④ 第35回 JIA 東海支部設計競技 (間瀬)

・タイトル「<帝国>と向きあうわたしの住まい」、審査委員長に佐々木敏彦会員、ゲスト審査員に京都造形芸大の家成俊勝氏、計6名の審査員で、1次10/27、2次審査12/1の日程で開催。

#### ⑤ 2018年度東海支部建築家認定評議会の予定 (野々川)

・評議員、本部職能資格制度委員、支部建築家資格制度実務委員の報告。  
・支部の登録建築家総数219名 (静岡25、愛知155、岐阜14、三重23、他2)

#### ⑥ CPD評議会 (7/6) (豊田)

・第一回評議会を開催し、6件の承認を行った。

・本部評議会が委員会になった場合でも、支部の評議会は存続する見込み。

## 3. その他

① 退会届「庭山真由美」「小栗康生」

② 会員種別変更 正会員→シニア 「今泉清司」

## 議事

### 1. 審議事項

#### ① 2018年度 岐阜地域会持出役員会 (8/3) (山田、澤村)

・予算について、懇親会費は参加者より実費徴収にて計画。

・以上承認。

#### ② 『ARCHITECT』存続に関する呼び掛けについて (中澤)

・8月の『ARCHITECT』に継続休刊の呼び掛けの文面を同封予定、継続・休刊に関するアンケートと会員集会開催の案内については11月に同封予定。

→承認

・会員集会は、静岡で1回、愛知・岐阜・三重で1回の計2回開催する予定。

・会員集会で出た意見、アンケートの回答、誌上での情報発信に対する意見を集約して、来年の支部総会で結論を出したい。 →承認

・存続危機の一番の理由は収支赤字で、会員による名刺広告減少による減収が大きな要因。2番目は執筆者不足で執筆者が固定化されつつある。

#### ③ 事務局パソコンソフトの購入について (澤村)

・事務局にあるパソコン2台のうち、もう1台にも WORD・EXCEL をインストールしたい。クラウドにして月払いの検討が条件であるが、購入について承認。

#### ④ 入会申込「金山美登利 (かなやまみどり)」(見寺) →承認。

### 2. 協議事項

#### ① 日独建築家交流について (矢田)

・ドイツ側の参加予定者は10名前後で男女比は5:5で20~60代、JIAのような団体会員が相応しければ対応可能。「JIA 国際交流活動支部事業助成」の活用を視野に入りたい。

・愛知地域会の有志会員と相談して修正案を作成し、引き続き協議を行う。

### 3. その他

#### ① 大阪北部地震への JIA の対応について (矢田)

・6/18に JIA 災害対策会議を開催、災害対策本部を立ち上げた。

#### ② 2018年度 JIA 国際交流活動支部事業助成について (澤村)

・申請締切日9/28。

#### ③ 行政との防災協定について (吉元)

・愛知地域会としては建築八団体と共同することを特色としたい。

#### ④ 行政 (三重県) との防災協定について (6/25) (豊田)

・協定の内容を建築教育に絞って半年程度を目途に協定を結ぶよう協議を進める。今後は主に県教育委員会と協議を進める。

#### ⑤ ゴールデンキューブ賞 (2019年) について (矢田)

・本部で予算をつける予定で、一年目にあたる来年度は実績のある東海支部に相談したい旨の申し出があった。支部として協議は必要だが、協力はしていく。

### 4. 監査意見

大瀧繁: 議事録の確認ができるよう、もう少し時間に余裕を持つこと。また、次第については事前にメールなどで配布して、各自プリントアウトしてはどうか。内容も把握できるし、質問の準備もしやすくなる。

登録有形文化財

山岳資料館(旧高山測候所)



建設当時の観測所全景



現在の山岳資料館全景



山岳資料館入口



■紹介者コメント

高山市の飛騨民俗村、「文学散歩道」を少し登ると、左手に「山岳資料館」がひっそりと佇んでいる。この残されている唯一の洋風建築は、1903(明治36)年に「高山測候所」として大野郡灘村(現高山市桐生町)に建てられた。設計施工は、明治から大正にかけて多くの作品を残した阪下甚吉による。1970(昭和45)年に測候所としての役目を終えて現在の位置に移築され、翌年「山岳資料館」に生まれ変わり、登山の歴史、用具、地学、気象、動植物などの貴重な資料が展示されている。

この建物は地方測候所の典型とされていて、当初は木造の平屋建て寄棟瓦葺きであったが、現在は鉄板葺きである。屋上には気象観測に欠かせない手摺付き観測台が設置されていたが、移築後は

手摺りが撤去され、より小振りのものに改装された。建築面積は202㎡。間口約11m、奥行約15mの内部は、玄関からの中廊下を挟んで部屋が並び、間取りは以前のままだに残されている。外壁は下見板張り、玄関屋根の破風板には瓔珞(ようらく)飾りが巡らされ、櫛形の床下換気口、寄棟造りの短い軒下には曲線を型取った持ち送りが並び、意匠は昔のままの面影を残している。

高山市役所教育委員会のご配慮で、元測候所長の桐本徹氏にお会いし、測候所当時の計測器や、ほぼ垂直な梯子を上ってこなした塔屋でのきつい仕事や夜勤のことなどの苦労話を伺い、あらためてこの文化遺産が果たして来た役割について思いを巡らすことができた。折しも、欧米からの外国人一団が見学に訪れたものの、外から眺

めただけでそそくさと帰ってしまった。せめて「中に入れて見たい!」と思わせるような掲示なり説明があったらと悔やまれ、登録有形文化財の在り方について考えさせられた取材となった。

所在地：高山市上岡本町3-932-1  
 アクセス：JR高山駅西口より徒歩20分  
 問い合わせ先：高山市役所教育委員会文化財課(TEL：0577-35-3456)  
 登録有形文化財登録番号：第21-0032号  
 参考資料：『岐阜県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書』岐阜県教育委員会、1996「高山の近代建築」高山市教育委員会、2002「技・巧・人」阪下甚吉、阪下ゆかり編、1994

藤田淑子(JIA愛知)|  
 名古屋文化短期大学名誉教授



データ発掘(お気に入りの歴史的環境調査)

賀茂神社参集所 旧丹葉織物同業組合玉ノ井検査所



正面外観



外観洋風軒裏



大広間(格天井)



下屋廊下内観

■発掘者のコメント

名鉄尾西線の終着駅「玉の井」から250mほど北東に、賀茂神社はある。境内には清水「玉の井霊泉」が湧出し、周辺の地名「玉の井」の由来となっている。市指定文化財の建造物古神門の他、彫刻、工芸など数多くの県指定・市指定文化財を所蔵する賀茂神社の境内の南西に、この賀茂神社参集所は建っている。もとは、この地より200mほど東にある尾北給食センターの敷地にあったとされ、旧丹葉織物同業組合玉の井検査所として使われていた。建設年は昭和12(1937)年以降とされるが、それが新築なのか解体移築なのか明確ではないという。丹葉織物同業組合は、かつての丹羽郡および葉栗郡地域の織物製造業と仲買など流通業の組合で、製品の品質向上を目的として設立され、丹

羽郡の布袋西成・千秋、葉栗郡の島村・黒田玉の井に品質検査所が設けられた。玉の井検査所の設置は、明治39(1906)年とされている。

正面の寄付きから建物内に入ると、間口8間、奥行4間の大広間があり、10畳の床の間付きの和室と8畳の和室が大広間に接している。この二つの和室の上は2階物置として使用されている。大広間と二つの和室を母屋とし、その4周に下屋が付き、土間・廊下トイレ8畳と6畳の部屋、裏玄関などが配されている。外観を眺めると、母屋の軒裏と壁は洋風、1段下がって下屋と寄付きは和風となっている。下屋と寄付きは、時期は不明だが増築されたものと見られ、神社境内に建つことを意識した増築とも思える。賀茂神社周辺には、繊維会社の下見板張りの事務所やのこぎり屋根の工場、蔵を持つ屋敷な

ど繊維産業隆盛時の雰囲気の色濃く残すまちなみが見られる。繊維産業遺産でもある賀茂神社参集所の存在も、このまちなみには欠かせない。

所有者：賀茂神社  
 所在地：一宮市木曾川町玉ノ井字穴太郎4番地  
 構造・規模：木造平屋一部2階建て、入母屋屋根、棧瓦葺き  
 出展：『愛知県の近代和風建築』40賀茂神社参集所(p139)

谷 進(JIA愛知)|  
 タクト建築工房



素なることと多様な相  
**JIA 建築家大会 2018 東京**

ARCASIA 東京大会同時開催

日程：2018年9月13日（木）～15日（土）

会場：明治大学駿河台キャンパス、建築家会館、グランドハイアット東京

プログラム：基調講演、シンポジウム、公共工事実施 コンペ公開審査、ACA18関連イベント、大会式典・レセプションパーティー

テーマ：「素なることと多様な相」

●ARCASIA 大会テーマ「Simplicity | Multiplicity」の邦題

●単純な形や単位から多様な空間を構築していく現代的な設計手法

●限られた材料と技術で様々な用途や規模の建築を生む建築家の職能

3つの意味を込め、建築家の職能やJIAの存在意義そのものを問う機会

主旨：単純な形や単位から多様な空間を構築していく方法論は、現在では流行を超えて既にスタンダードとなりつつあります。これを高次に捉えれば、いま手に入る材料と技術だけで様々な用途や規模の強くて安全な建築を考える我々の普遍的な職能も、この関係性の相似形と言えるでしょう。「素なることと多様な相」

とは、同時開催されるARCASIAのテーマ「Simplicity | Multiplicity」の邦題であるとともに、そうした現代的な設計手法と、立ち戻るべき建築家のありかたとを重ね、3つの意味が込められた、全国大会のメインコンセプトです。IT技術で地方との情報格差もほぼ解消された東京における11年ぶりのJIA全国大会と21年ぶりのARCASIAの同時開催にあたっては、東京の地域性よりむしろ、建築家の職能やJIAの存在意義そのものを大きくテーマに掲げ、これらを見直す絶好の機会にしたいと考えています。

今大会はARCASIA東京大会との相乗効果を図るため、登録者はそれぞれ主催の企画に、木曜以降は相乗りが可能です。特に4つの基調講演は、全て同時通訳が予定されています。

同時開催：ARCASIA 東京大会（ACA18）

学生ジャンボリー（ARCASIA STUDENT JAMBOREE 2018）

※2018年9月10日（月）～9月14日（金）

主催：公益社団法人日本建築家協会（JIA）

運営：2018全国大会実行委員会

問合せ先：公益社団法人 日本建築家協会（JIA 関東甲信越支部）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA 館

Email info-kanto@jia.or.jp

## 地域会だより

### < 東海支部 >

9/13～15 JIA 建築家大会2018東京

### < 静岡 >

8/9 静岡地域会拡大役員会・納涼会

8/9 第2回JIA塾の開催

旅行記「アジアのまちなみ」高島ゆかり氏、塩見寛氏

旅行記「イタリアの絶景と田舎散歩」伊久美太助氏

### < 愛知 >

8/4 住宅研究会&近畿支部住宅部会交流見学会

8/6 建築8団体にて名古屋市副市長と昼食会

8/27～30 JIA 建築ワークショップ@豊橋

（会場設営・「JIA 建築家賞」審査・会場WS）

8/30 NAGOYA Archi Fes 連続レクチャー第4回「浅井裕雄」

9/12 NAGOYA Archi Fes 連続レクチャー第5回「栗原健太郎」

9/28～1/25 名市大・JIA2018年後期授業「建築家の仕事」

9/29 住宅研究会 環境セミナー第1回

### < 岐阜 >

8/3 第3回支部役員会 in 岐阜

8/23 JIA 岐阜 第4回役員会

9/20 JIA 岐阜 第5回役員会

### < 三重 >

8月 第3回三重県とJIA 東海支部との防災協定締結に関する協議（三重県庁）

8/28～29 福島県復興視察 研修旅行

9/21 会員研修2・森羅万象匠塾

12/7 会員研修3

## 地域の暮らしに寄り添い考える

法人協力会通信③⑦

<三重>

新堂昌孝 | 株式会社ミヤムラ常務取締役



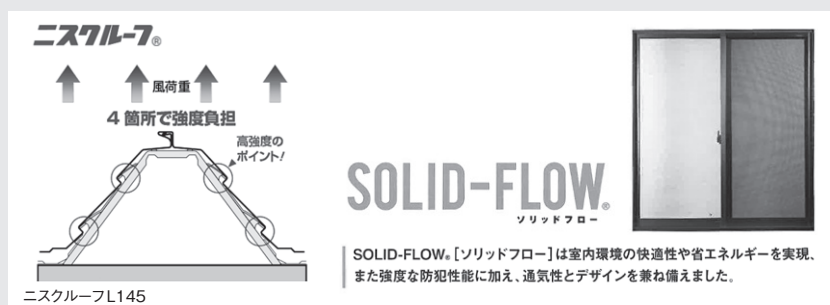
「人々が集い、暮らす、表現豊かな街並」。弊社は、設立以来金属建材の開発製造はもとより住宅資材全般の販売、施工会社として「地域の暮らしをより豊かなものにする街創りに貢献すること」を社是に各メーカーとの密接な協力関係のもと、金属建材の開発製造と物流、さらには施工体制の整備に務め、ユーザーの皆さまのお役に立ちたい一心でこれまで業務

に努力を傾注してまいりました。「地域の暮らしの特性はその地域で根ざした企業が一番理解している」。商品の提案にもその思いを込めます。

当地域は古くから「伊勢湾台風」に代表されるように度重なる台風被害にあっております。そうした強風による被害から建物を守るためにわれわれ金属屋根業者でできることは金属屋根の高強度化であ

ると考え耐風圧強度の高い金属屋根（ニスクーフL145）を提案させていただいたりもします。

また、都市部ではあまり考えられないことかも知れませんが、少しの買い物程度であれば夏場は窓を開けて網戸のままにして家には誰もいないこともよくあることです（笑）。しかしながら近年の防犯意識の高まりから通風はしたいが施錠もしたいとの要望から防犯網戸（ソリッドフロー）を提案させていただいたりもします。これからも地域の暮らしに思いを馳せ貢献する企業である様努めてまいります。



SOLID-FLOW。【ソリッドフロー】は室内環境の快適性や省エネルギーを実現、また強度な防犯性能に加え、通気性とデザインを兼ね備えました。

●株式会社ミヤムラ  
三重県津市河芸町東千里1019-2  
TEL 059-245-1515

## 編集後記

●今年度JIAに入会し、7月に始めて会報・ブレン委員会に出席しました。そして『ARCHITECT』の存続についての議論を展開することになります。これはしっかりと先輩委員の方々についていけないといけないなと思いました。なにしろ『ARCHITECT』についてはこれからいろいろと学んでいこうと思っていたのです。ただ、学ぶべきことの多くは、初出席の委員会で知ることができました。それほど委員会の中でも多くの意見が出たからです。情報過多の現代において、建築家活動という一つの話題に特化しまとめられた会報誌は、モノゴトをダイレクトに知る上で重要であり、しかし、伝達するための媒体は紙である必要もないかもしれない。同じ志を持った者の集まりがあり、その会報誌が出版されることは何ら否定されるものでないという考えもまた正しいと思います。会報委員になり、『ARCHITECT』

の「そもそも」を素直に理解し、東海支部の方々が冷静に判断できる情報を整えることを、まずは自らの目標に据えて委員会に取り組みたいと思います。（中村慎吾）

●今月お届けする『ARCHITECT』は新日本建築家協会として発足後、最初の第1号は東海支部の機関紙として発行され、その後一時、愛知部会の機関紙となるも、継続的に発行され今号9月号をもって第360号、30年間私たちの機関紙としてその存在は特筆すべきものとなっていると私自身は思っています。時代の必然としてあらゆるものがデジタル化され私たちの仕事の世界でも全てデジタルな納品がなされています。さらに人間の知的な営みまでコンピューターに行わせる技術へと進化し、人工知能が人類の知能を超える特異点といわれるシンギュラリティの到達まで真剣に研究されています。今号に掲載されている「会報誌『ARCHITECT』は必要ですか？」はぜひ会員全員で真剣に考えていただきたい緊急連載です。会報の存続が経済的に

危機にあります。二進法で表された会報と印刷された文章のなかに漂う空間・文脈そしてその表紙を含めて、その二つの間には表現できない違いがあるように思われてなりません。ぜひこのお知らせをご覧になり一緒に考えてみませんか？

（黒川喜洋彦）

### ARCHITECT

第 360 号

発行日 2018.9.1（毎月1回発行）

定 価 380 円（税込み）

発行責任者 矢田義典

編集責任者 中澤賢一

編 集 東海支部会報委員会  
愛知地域会ブレン委員会  
建築ジャーナル内  
ARCHITECT 編集部

名古屋市中区栄 1-1-31 吉泉ビル 703

TEL (052) 971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社) 日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052) 263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

http : //www.jia-tokai.org/